



ナイロビ日本人学校との共同授業

アフリカには、3つの日本人学校があります。**エジプトのカイロ**、**ケニアのナイロビ**、そして**南アフリカ共和国のヨハネスブルグ**です。三校とも**児童・生徒数が25人（カイロ）～45人（ナイロビ）**と小規模校です。しかも、中学生となるとカイロは三学年合わせて6人しかいません。少人数だとその生徒に応じた授業ができるという利点がありますが、**学習課題をいろんな角度からみてみたり、いろんな意見に触れたりすることが難しいという弱点**があります。この弱点は小規模校に共通の課題と言えます。

そこで、カイロ日本人学校とナイロビ日本人学校とで、共同授業を行うことにしました。両校とも小規模校であり、カイロとナイロビは、時差が1時間しかないので時間調整が簡単という利点もあります。また、同じアフリカという親近感もあります。1学期に小学4年生、2学期に中学生で共同授業を行いました。**共同授業はSkypeを使用**します。Skypeとは、インターネット回線を利用した、言わばテレビ電話です。これが無料なので、使わない手はないと考えました。ナイロビの先生との打ち合わせもSkypeを通して行いました。



Skype を利用した共同授業の様子

授業の実際ですが、中学生の授業は私が行ったので、中学生の授業についてお伝えします。生徒にはとても好評でした。相手が同じ中学生で、しかも同じような環境で学んでいる生徒なので、大変意欲的に取り組みました。私の授業は総合的な学習の時間で、「**働くとはどういうことか**」というテーマで、職場体験学習を通して自分の将来や生き方について考えました。何のために働くのかをナイロビの生徒と意見交換しながら議論しました。ある生徒は、「**お金を稼ぐため**」と言い、またある生徒は、「**社会に貢献するため**」と主張しました。そこで私は、「**仮に宝くじが当選し大金を手にしたら、あなたは仕事を続けますか？**」と問い掛けました。ここからは、事前の準備はありません。生徒がその場で考えて意見交換し、質問し合いながら生の議論を行いました。生徒の本音がぶつかり合い、とても見ごたえがありました。初めは遠慮がちだった話し方も、だんだんいつも通りの話し方になり、議論にのめり込んでいることが、そばでみていてはっきり分かりました。

授業が終わって、生徒に感想を聞くと、「**もっと意見を言いたかったし、自分の意見にも質問してほしかった**」と、もっともっと話したかったようでした。それと、「**議論を通して、自分の意見が変わった**」という生徒もいました。自分の意見を変えることは、中学生にとって勇気があることだと思います。きっとその生徒は、**多様な価値観に触れて、多様な考えがあることに気付いた**のだと思います。共同授業を通して、多くの人との関わりは、とても大切だと改めて思いました。そして、生徒の感想を聞いて、交流授業を行ってよかったと思えました。



共同授業の研究授業